

刊夕6十月五

常磐每日新聞

定価 一部全紙一円五十分 郵税五厘
 廣告料五號十二字 行金五拾銭
 日曜祭日の翌日休刊
 発行所 常磐毎日新聞社
 印刷所 常磐毎日印刷株式会社

生死禮讚頌

真繼 雲山

生を喜び、死を悲しむは人情の常であるも、生れたからには死なねばならず、生れて来たことは同時に死に、来たわけであるから、生は同時に死を意味する。生なくして死あることはなく、死は生の一變化でしかない。このゆえに生即死であり生死一如である。

理として左様に分つてはあつても、人は容易に己れの死を肯定せず、寧ろ空恐ろしさものにして敬遠しやうとするも、たとへ岩の陰海の底に隠るゝともこの一事ばかりは逃るゝ術はない。

靈魂の不滅説は、最後のドン詰まりに於ける唯一の逃げ道として人間の考へ出した一案であるも、その滅不滅の何れが事實であらうとも人はそれによつて安心を得るものではなく、假りに理論として死の問題が解決せられ、進んで靈魂の不滅が實證せらるゝにしてもそれによつて現在の自らの安心悟道が得らるゝ筈のものではない、必ず結構な極樂に往き生れると聞かされ乃至靈魂の不滅を實證せらるゝ共、矢つぱり死にとむないのは一つであつて、既に死にとむないとのこたわ

りが存する以上、廓然無聖呵々大笑の域には達せられぬ。靈魂の滅不滅は科學として價值あるかは知らねども、宗教としては多くの交渉はない。宗教とは死んでから佛に成つたり、靈魂が永存するといふが如き未來の研究問題ではなく、現在の只今が樂しく安心して眞實に生きゆくことの事實問題である。この故に宗教としては、死後の問題は實は何うでもよい筈だが、死後の行く先がハッキリせねば現在の身の上として安心がゆきかねる。故に宗教は死後の世界を究明し解決するのである。そこで現身を安心させるために靈魂は不滅ぢや、極樂は結構な處と見て来たやうに旨い講釋をする人もあるが、死んでの後に只今のやうな煩惱具足の意識が永存してゐるものであるとして、萬が一それからあとに永久死ねぬとなつたら何萬年後には倦怠の極あくびの連發となり進んで三原山患者が満員となるの外はあるまい。佛教とはそのやうな架空談ではなく既に無我を主張して、實に現身をも否定する以上死後に何等の滞着を説く筈はない。

煩惱具足の肉身として死は厭ふべく悲しむべきであるも、佛教の立場からは固より破顔一笑、底に屬するとはいへその實、求道者としては死の問題は大切であり、重要である。斯く申す筆者にしてからが萬一この肉身が永久死ならぬといふものであるなら、私の人生觀も根底から變り、恐らくは道を求め、法に歸依することなくして日夜名利に愛溺し終ることであらう。然るに生死の問題が如實に目前に横はる故にこそ、それを解決すべく佛を求め法の道に分け入るのであつて、その結果眞如實相に體達して佛を見、生死の關を辭して永生の光明を拜し、轉迷開悟して、この現身に安心を得ることが出来るのである。

文藝募集

死なくんば何の人か、法の林に分け入らんや、分け入らずんば焉んぞ永生を得んや、厭ふべしとする死そのものこそ、我れを樂地悟境に導いてくれる唯一の先達である。この故に私は生を肯定すると共に死をも禮讃する。一如である。生死この佛の一顯現である。

完



玉屋洋品店
 平町田町通 電話六五六番

内科・小兒科・花柳病科
藤沼科 院
 入院需應
 平町紺屋町 電話五〇七號

鹽豚
 肉蒲鉾
 田町 三三三屋

外科
 門專
 科線光 X
上田外科病院
 平町南町 電話一二九番

中村齒科醫院
 平町鍛冶町七

春のトレンドコート	7.50ヨリ
春のバアバリー	3.00ヨリ
春の正札堂特製トンビ	8.50ヨリ 18.00マデ
春の紺セルネヅミセル外套	4.50ヨリ
春の三ツ紺セビロ	7.50ヨリ

平四丁目停車場通り
正札堂
 電四三六番

秘の
七
 豆を
 八せん
魚邊食堂
 電話三三三番

小兒科 専門
 特ニ乳幼兒ノ康健相談ニ應ズ。
 平町 ねずみ坂
渡邊醫院
 電話一六一番

五年の後は

一戸二百六十圓の増収

石城郡錦村で自力更生案發表

石城郡錦村では農林省に於ける昭和七年度の更生計畫實施四十ヶ村中の一つに加へられたので村當局では協議の結果この程左の如き廿三項目に亘る實施案を發表したがこの更生案に依ると五ヶ年後には一戸當り二百六十八圓の増収を見更に村内生産額は十二万八千廿一圓の増加を見る事になつてゐる

△米の増収△紫雲英増加
△ザイトウ井ツケン増加

△二毛作大麥増加△小麥の増収△甘藷苗自給△馬鈴薯増加△ホーレン草間の自給△綿羊の増加△養兔の増加△養鶏の増加△堆肥肥改善△果樹園の改善△自家醬油自給自足△屑糶加工△種子共同購入△肥料共同購入△玄米共同販賣△大小麥共同販賣△消費節約生活改善△更生貯金

平町の登録労働者を

夏井川改修工事へ

職業紹介所が斡旋に大童へ

既報平町當局の斡旋による平町登録労働者の縣營夏井川改修工事場進出に就いては其の結果を少なからず期待されてゐたが愈々同仕事も来る廿日より着手するとの情報を得たので平職業紹介所では近く進出労働者の登録を開始する事になつた本年度に於ける改修工事は草野村十枚橋附近及び平窪村地内の二箇所にて行はれるが農繁期の事として地元部落民の人夫は非常に減少される結果平町よりの進出

石城郡下の

匡救土木事業決定

匡救土木事業決定平土木監督所管内八年度匡救事業は豫てより各町村より申請中であつたが今回總額廿七萬二千二百八十三圓と發表された主なものは道路工費で十萬八千三百圓河川改修は三萬圓港灣廿三萬三千九

植田町農會で

農作物品評會授賞式舉行

石城郡植田町農會の昭和七年度農作物品評會授賞式は昨九日午前九時より同町役場内に行はれたが入賞者左の如くである

- 水稻(一等)鈴木保 小宅勇(二等)木田卯之松 赤津千代松 須田保平 赤津傳吾(三等)鈴木平次 水野善作 永山濱吉 田子金光 高木龜次郎 赤津勝(四等)柳葉善之助外七名
- 苗代(一等)鈴木英次郎 木田富藏(二等)鈴木輝次 吉田一 赤津又一 佐藤鐵太郎(三等)鈴木政治外五名(四等)阿部福榮外七名
- 堆肥(一等)水野善作 大平一郎(二等)小宅勇 大平洋 吉田淺次郎 三戸善次(三等)小川清治外五名(四等)大平一雄外七名

- 入遠野四、九〇〇圓 川部三、九〇〇圓 平九八〇〇圓 高久四、九〇〇圓 豊間七八、一五〇圓 江名二三、〇〇〇圓 鹿島二、九〇〇圓 湯本一四、七〇〇圓 内郷二一、七〇〇圓 好間七、三〇〇圓 赤井一〇、〇〇〇圓 永戸五、八〇〇圓 澤渡七、八〇〇圓 四倉三、九〇〇圓 小川二九〇〇圓 川前二、九〇〇圓

自動車ポンプ

昨夕到看

平町に都合三臺

平消防組では既報の如七千餘圓をもつて自動車脚筒を購入する事になりかねて福島モーター平出張所の斡旋でゼネラル本社と購入契約中であつたが昨九日到着したので直に午後四時より夏井川に於いて関係者立會の上放水試験を行つた結果良成績を見たので消防組に納入されたがこれで平町の自動車ポンプは都合三臺となり消防の完璧を期する事となつた

農業倉庫建設

石城郡渡邊村信用組合では今回業務擴充を計る爲め農業倉庫を經營して共同販賣を實施する事となり近く工費三千圓を投じて役場裏に倉庫を建設する

井上平組頭に

消防功績彰を授與

縣下消防組頭大會當日

平消防組頭井上茂作氏は今明兩日に亘つて喜多方町に開催された縣下消防組頭會議に於いて多年名組頭として盡力したので功績彰を授與されるが尙郡内各消防組員で表彰されるのは左の如くである

(平)關内正一 三井富吉 (川部)兒玉万平(勿來)小松章

平町人事

△六間門五 神長倉春造氏

五男功

結婚 姻

△東京市神田區五軒町八石原五六(三一)鎌田町五〇中澤ミツ(二六)

回 死 亡

△三丁目三一 鈴木長松 (六一)

市原醫院

平町田町 電話一四四番

短期特別大興行

巴拉マウント本年度超特作 大 歴史 史 劇

主演 フレドリック・マーチ エリツサ・ランディ
クロード・コルベール チャールス・ロートン
出場人員八千餘人
オールトーキー日本版

暴君ネロ 十四卷

若さ日の感激 十卷

監督五所平之助 主演川崎弘子 瀧口新太郎 齊藤達雄 日守新一

トッキー漫画

本興行中從來發行の入場券割引券お断申候

入場料 普通席 大人 一圓 小人 五角
一等席 大人 二圓 小人 一圓
特等席 大人 三圓 小人 一圓五角

平館 (電四六六)

是非御利用を

營業時間午後九時迄

平町四丁目河岸通り
三井質店
電話六〇六番

春雨煙る揚土臺上で

平商校創立二十周年の記念祭舉行

今日午前十時から 來賓百余名列席盛儀を極む

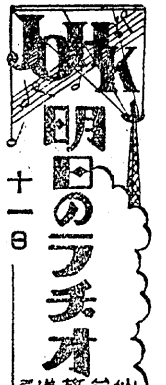
既報—今日の意味ある創立二十周年記念日を迎へた平商業學校では晴雲低くたれ込めた中、朝まだきから一發又一發と煙火を打ち上げてこの喜びを全町に知らせた、これより先同校では正面に大アーチを建て更に校内外を萬國旗で飾り今日の祝賀気分をいやが上にもそよよと、定刻を迎へたが午前十時着席の挨拶と共に青沼町長外來賓百余名は全校生徒と講堂の設けの席に着き開會を待ち定刻矢野校長開會の開辭に次いで全員起立裡にワシに輝く校旗を迎へそれより順次豫定のプログラムに従つて式は進められた、青沼町長の祝辭、辭野崎縣議の祝辭、菅本商友會長の祝辭、生徒總代表五年生四家肇君の祝辭、勤續教諭中村、武川兩氏の表彰、同窓會の記念品贈呈あつて再び全員起立裡に校旗を送り午前十一時半閉式したが同校創立以來の盛儀で矢野校長以下關係者は只々感泣してゐた、尚午後よりは商友會主催のもとに物語會員の追悼會を催し更に松ヶ岡公園に於て園遊會を試みて午後五時散會した、



學校長

式辭

本日茲に本校創立二十周年記念式典を擧ぐるに當り來賓各位の臨席を辱ふし多數卒業生諸君の來會を得たるは本校の光榮とする所なり抑々本町は縣下有數の商業地にして其の急速なる發展は商業教育機關設置の氣運を促し本町有志之が創設の計畫を立て商業補習學校の名を以て第一小學校内に開校せり之實に大正二年本月本日にして本校の濫觴たり同九年組織を變更して乙種商業學校となし爾來年を遂ふて堅實なる發展をなし殊に近時一般教育思想の進歩と時勢の進運とに伸ひ昭和五年更に現制度の甲種商業學校に



今晚も明日のラジオ 風小雨

今晚の部

後六、〇〇 子供の時間
お話と唱歌 鹽釜小學校
児童
後六、二五 ことばの講座
文學博士 市川三喜
後七、三〇 講演「競技に

於ける社會と法律」京北
帝大法文學部教授中川善
之助
後八、〇〇 連續講談「難
波船記」第二席旭堂南陵
後八、二五 放送舞臺劇
「戦はこれからだ」歌舞伎
座より中繼

後九、三〇 時報 ニュー
ス 氣象通報 番
告
明日の部
前六、三〇 基礎ドイツ語
講座(十三)橋本忠夫
前九、一〇 料理献立「蛤
のチャウダー」阿部やへ
前一〇、三〇 家庭講座
「季節と婦人服(人と眼
と型と色と)」木田翠明
後〇、〇五 映畫物語「丸
橋忠彌」泉天嶺
後二、〇〇 野球試合實況

機に遭遇し今日の盛典に
關りたるは實に榮與とす
る所にして茲に報謝の意
を表すると共に各位の將
來一層の指導と援助を懇
請して止まざるなり茲に
聊か卑懷を陳べて式辭と
す



商友會長

祝辭

吾母校平商業學校本日茲
に創立二十周年記念式を
擧げられ朝野貴賓の貴臨
を辱ふしたるは母校の光
榮にして吾等の衷心より
感激に堪へざる所なり願
みるに母校は大正二年の
開校に係り當時商業補習
學校たりしもの爾來校運
歳と共に振興し時代の趨
勢に従ひ昭和五年甲種程
度の商業學校となり以て
今日及び卒業生に一千

に達せんとし其學得せし
所の智識を活用して各自
其業務に精勵し以て邦家
の爲めに貢献し母校の校
風の發揚せん事を期する
は我等卒業生の現況なり
之町當局の深甚なる斡旋
盡力と校長並に諸先生の
經營教導の賜にして寔に
感謝に堪へざるなり若し
夫れ母校が愈々發展し卒
業生益々多からんには當
に地方のみならず國家の
爲めに裨補貢獻して斯界

歡順和尚の 銅像除幕式舉行

十四日午前十時から 草野村光明寺境内で

その昔澤村勘兵衛
を助けて小川江筋
開墾に偉大なる貢
献をなした石城郡
草野村字泉崎の光
明寺住職歡順和尚
の徳を永久にた
へる爲め江筋組合では巨費
を投じ光明寺境内に和尚の
銅像を建設したが竣工した

平十三日會例會

平町十三日會例會は十三日
午後七時より丸トモ樓上に
於いて開會されるが新任警
城中學校長小楡山久作氏の
講演ある筈

東京大學野球聯盟リーグ
戦(明治神宮外苑球場よ
り中繼)
後六、〇〇 子供の時間
獨唱 永岡志津子
後六、二五 英語講座(二
十四) 細江逸記
後七、三〇 講演「地球の
壽命」京都帝大教授理學
博士松山基範
後八、〇〇 角力衡れ太鼓
後八、一〇 謠曲
後九、〇〇 連續講談「難
波船記」第二席旭堂南陵

木村外科醫院

平町五丁目橋際
電話三〇九番

- 給料面談(平町某)
- △商店員 二十二以下 尋
- 辛月十圓(平町某)
- 回職を求める方
- △飲食店員 二十九才 尋
- 辛給料面談(新潟縣某)
- △土工夫 四十八才 尋卒
- 給料面談(平町某)
- △事務員 二十一才 中卒
- 給料面談(大浦村某)
- △運送店車力 二十一才
- 高卒 給料面談 (玉川村某)
- △女中 三十六才 高卒
- 給料面談(長野縣某)

